

「知道，明白，?得」の意義素記述

著者	大瀧 幸子
雑誌名	中国語学 = Bulletin of the Chinese Linguistic Society of Japan
巻	1988
号	235
ページ	65-75
発行年	1988-10-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/41105

「知道、明白、懂得」の意義素記述

大 滝 幸 子

(埼 玉 大 学)

本論文的主要内容は叙述知覚・思考動詞「知道・明白・懂得」の意義素以及和日語「知る、わかる」の差別。

在意義素論上、意義素被看作是由语义特徵、語法特徵、和文体特徵構成的。本論文特別對語法特徵進行了探討，首先通過考察「疑問句的語法特徵」來給「無定詞的語法特徵」下定義。然後，對於這些語法特徵對知覺・思考動詞的賓語有什麼影響進行調查，根據調查結果確定動詞的意義素。關於日語動詞的調查結果從略。

我們知道「知道」一般等於「知る」，「明白、懂得」一般等於「わかる」。本論文把不符合這個規律的例句用作研究對象，以證明意義素的記述方法能明確地說明漢語和日語的差別。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 3.1. 意義特徴の想定 |
| 2. 本稿で用いる文法的意義特徴 | 3.2. 「懂」と「懂得」 |
| 2.1. 質問文に関する文法的意義特徴 | 3.3. 意義特徴の検証 |
| 2.2. 不定詞に関する文法的意義特徴 | 3.4. 「知る、わかる」との比較対照 |
| 3. 「知道、明白、懂得」の意味記述 | 4. おわりに |

1. はじめに

本稿は中国語の思考、知覚動詞の「知道、明白、懂」の三つの単語について、目的語との共起制限のあり方を語義的にも文法的にも説明しようとする意義特徴を見出し、各単語の意義素を記述しようとするものである。

なお、本稿の例文はすべて北京語言学院副教授鹿琮世氏のインフォーマント・チェックを経たものであり、随時さらに三人の女子留学生（ともに30才前後）に内省報告を求めた。語感に違いがみられた場合もそれをそのまま資料として並記した。

2. 本稿で用いる文法的意義特徴

従来、意義素論において文法的意義特徴として挙げられてきたものには、*くが*、*を*、*か*

ら、*へ*、*に*呼応する¹⁾、 $\langle [[P_1] \text{ ト } [P_2]] \text{ 時制辞} \rangle$ (P = 時制辞を含まない命題)²⁾、等がある。しかし、これらは表層構造における形式の用法を示すものであり、位置の規定を表わす記述である。そこで本稿では形式に関する記述を「統語的特徴」の名称で扱うことにし、「文法的意義特徴」とは区別する。本稿では文法的意義特徴として、国広1982、にみられる「真偽の判断を下しうる命題」〈命題 P_1 と P_2 を同じ資格のものとして結ぶ〉「統一的関連性」($P277$) の如く、(1)外界との対応を持たない、(2)メタ言語によって示される判断・表現の意義特徴、(3)複数以上の統語的特徴に共通の意味であるものを扱う。

2.1. 疑問文に関する文法的意義特徴

「知道」と「希望」とが異なる形式の疑問文を作ることはつとに指摘されている³⁾。以下、疑問文となる形式についての調査を〔表1〕にまとめる。

〔表1〕 ※=不成立 ①=注釈番号
↗=上昇文音調 ↘=下降文音調

	[]=挿入位置	〔知道〕	〔希望〕
(1)	你[]他什么时候来	↗疑問① ↘肯定②	↗疑問 ↘※
(2)	你[]他什么时候来吗	↗疑問 ↘反問	↗※ ↘※
(3)	你[]他去不去中国	↗疑問 ↘肯定②	↗※ ↘※
(4)	你[]不[]他去中国	↗疑問 ↘※	↗疑問③ ↘※
(5)	你[]他去中国吗?	↗疑問	↗疑問

注① 上昇の文音調のみで疑問文となるのは、「你知道……↗」の形式に限られ、「他」を主語とした場合は不成立(↘肯定として成立)。

また、現代汉语八百詞では「你知道他是谁？」を疑問文とし、漢語常用動詞搭配詞典では「你知道他是谁吗？」を挙げている。本稿のインフォーマントは全員が「吗」を加えない八百詞の用例について伝達上何らかの特殊なニュアンスを伴なうとした。「不客气」「关系很亲密」、また「谁」にアクセントをつけ、「警告」(偉い人なのよ!等)を表わすというが、全員「可以说」と判断した。(後述)

注② 通常「知道」に強調アクセントを置き、「提醒、反問」のニュアンスを表わすゆえ、伝達レベルの〈強調の型〉が加わった形式と考える。

注③ 若いインフォーマントは一様に使わないと言う。鹿氏は「这个“希望”和“愿

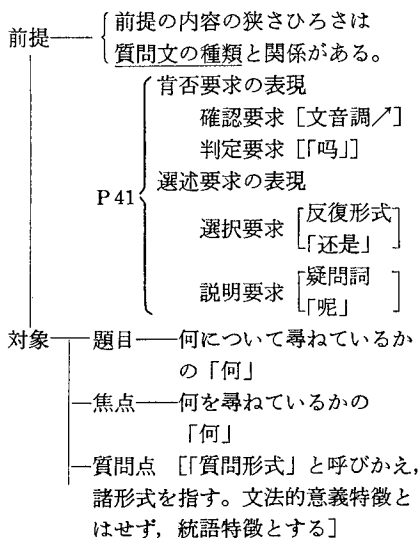
意”意思一样，语法上没问题」とする。ともに、「希望」本来の用法からずれた表現と感じている。

〔表1〕の調査結果は、(1)、目的語となる主述構造が文(題述型)ではなく、句(統合型)として扱うべき形式であること、(2)、いわゆる疑問詞、反復疑問形式が、常に「伝達レベルでの疑問」を表わすわけではないことを示している⁴⁾。

そこで、この文法上のレベル差を適確に整理するために、南不二夫「質問文の構造」(朝倉日本語新講座4「文法と意味Ⅱ」1985所収)にほぼ準拠し、疑問文に関連する文法的意義特徴をいくつか想定した。

〔図1〕 P53. 質問文の構造

([]内は筆者の用法と解釈)



「你知道↗?」の疑問文は、聞き手を題目とし、かつ、目的語中の不定詞から焦点をはずす「吗?」を伴なわない形式をとるため、より聞き手が焦点となる伝達上の効果をあげると考えられる。それは、疑問文はすべて

「聞き手に解答能力があるという話し手の期待」を前提としているにも関わらず、知識があるかないかを質問形式に選ぶことは、題目と焦点の分離を決定づけて始めて通常の疑問文として意識されるはずだからである。「他知道～／？」不成立の原因は後述する。

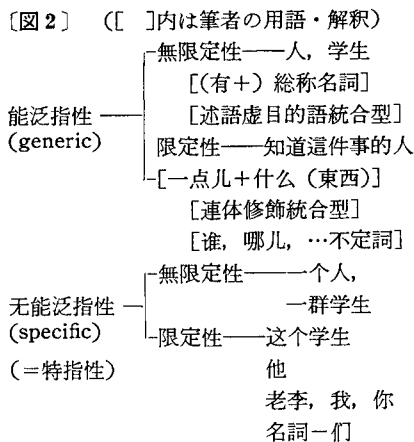
また、各々の文法的意義特徴には、形式毎に認定（外界対象）叙述（文脈対象）述定（叙述内容対象）伝達（聞き手対象）のどのレベルに属するか区別があるものとする。筆者はこれまで中国語の質問形式の文法レベルを次のように分析してきた。（→は、誘導連動関係を示す）⁶⁾ (1)上昇文音調＝述定放棄→聞き手に述定を求める伝達の営み、(2)吗／＝一つに定められた叙述内容（前提）について、一ヶ所以上の反現実・反真理があるかないかを尋ねる。（叙述完了と伝達）(3)反復形式＝叙述の営みの段階で事実判定、論理判定の是非が定まらない→聞き手に叙述を一つに定め、述定を加えるよう求める伝達の営みが生じる。(4)「还是」＝聞き手に複数以上の叙述の中から一つを定めるよう求める伝達の営み、(5)「呢」＝叙述内容の中に話し手にとって、ある対比（外界対象、文脈対象）を経て取りあげるにたる価値（選定価値）のある箇所を強調（伝達）する→選定価値のある箇所のみを示し主題とし、述部を省略放置する→聞き手に述部を叙述させようとする伝達の営み。

すなわち、いわゆる疑問文は伝達の営みが生じた場合に成立するのであって、質問形式（単独で用いた場合、質問的要求をする伝達の営みが加わる）そのものがどの文法レベルに属するか個々に判断すべきと考える。そこで、本稿では未検討の質問形式疑問詞についても考察し、文法的意義特徴を定める。そして、疑問文に用いられる質問形式は、伝達、述定、叙述、認定の優先順位に従ってその意義特徴を発揮して質問の焦点になるものと考えられることとする。

2.2. 不定詞に関する文法的意義特徴

中国語において、「誰、什么、哪儿…」等の質問形式が質問の焦点とならず不定詞の意味で用いられることについては、つとに考察が加えられている⁶⁾。大西1987では、「疑問詞が不定指示詞として機能する文」を7種あげ、「中国語の疑問詞はそれ自身では不定指示詞としては機能しえず、その疑問詞が不定であることを表わすなんらかのマーカー（“好象”“不知”等）を付加する必要がある」とする。ただし、「甚么、几」はそれ自身不定指示詞として機能しうると認め、命題の実現そのものが話し手にとって不確かであることを『不定』とする。筆者は異なる視点から考えて『不定』についての文法的意義特徴を想定する。すなわち、(1)日本語の「だれか」と「だれ」の区別と中国語の「誰」の不定詞的用法と疑問詞的用法の区別とを対応させない。日本語の不定詞に対応する中国語における形式は、虚目的語、及び「有＋総称名詞」が基本であると考えられる。(2)意義素を決めていく手順は、文章から始まって、文、句、（統合型）単語という抽象段階を経て、単語にどれだけの意義特徴が固有のもの（意義素）として残るかという方向性をもつ。したがって一つの意義素内の意義特徴の関係づけは、抽象度の高い認定レベルから叙述、述定、伝達レベルへと連動させることを基本とする⁷⁾。そのうえで、本稿では、讀井唯允1986「集合概念をあらわす名詞の意味と統語法」（東京都立大学人文学報第180号）にほぼ準拠し以下四項の文法的意義特徴を〔図2〕の如く想定した。

筆者は、能泛指性の無限定を認定レベル、限定を叙述レベルの文法的意義特徴として捉える。讀井は前者を文脈前方指示（anaphoric）の用法では特指性であると認め⁸⁾、後者を存現文の目的語となることから従来の「有定」から区別する。筆者が不定詞を叙述レベルの形式とするのは、橋本1981に指摘がある



如く、話し手が「誰来了?」と質問する為には必ず「有人来了。」という前提を有しているのであり、「誰, 哪儿…」などには深層構造において連体修飾統合型内の中心語として位置づけられる文法的意義特徴が必ず含まれると考えるからである⁹⁾。こう考えると不定詞を用いて叙述の営みを完了させ陳述を加える、つまり言い切るためには、疑問詞的用法と不定詞的用法とがあることが以下の如く説明できる。言い切るための叙述の営みには、事実に関する情報、または論理に関する情報をのべて、表現者にそれらを現実または真理に照らして真偽の判断(述定)を下させる役割がある。しかし質問文は述定を下さずに聞き手に回答文を出させることによってはじめに述定を完了させる文であり、そのうち、説明要求の質問文(不定詞と「呢」)は叙述の営みをも放棄し、聞き手によって叙述も完了させる文とみなせる。不定詞の文法的意義特徴を、「論理的にある条件をみたすなにか(人, 時間場所の類別のみ存在)」として想定したならば、述定を加えるための情報を整える叙述の営みは、(1)論理的にみたすべき条件を示し、(質問句)その条件に合致する情報を叙述する(回答句)、(2)ある条件を論

理的にみたすものは(条件句)すべて別のある条件をもみたす(帰結句)の二種類が可能となる。つまり叙述の欠けた二ヶ所の空の情報部分(・印)をうめるために、前者の叙述の営みをとった場合は疑問詞的用法となり、後者の叙述の営みをとった場合は不定詞的用法となると考える。

以上の文法的意義特徴を考慮に入れて、知覚・思考動詞の意味記述を試みることにする。

3. 「知道, 明白, 懂得」の意味記述

これらの動詞は語気助詞「了」と結び、回答文や言い切りに用いられるだけの叙述内容を表わせる。そこで語義的意義特徴を調査するにあたり、動詞のアスペクトを外界に対照させて規定した平相(変化が生じる以前の状態)と流相(変化が生じて成立した、消滅することを前提とした一時的状態)または、異相(変化が生じて成立した、永続することを前提とした状態)とを比べた場合、対立点を明示する意義特徴が弁別的意義特徴として含まれうるものと仮定し、注意を払って調査することにする。

3.1. 「知道, 明白, 懂得」の意義特徴

これらの動詞については、野ロマリ子「知る, わかる, と“知道, 明白, 懂”(伊智地善継, 辻本春彦両教授退官記念「中国語学文学論集」東方書店1983)に細かい用法分析がなされている。本稿では、そこで記述された意味を踏まえ、〔表2〕の如く意義特徴として整理したうえで、新たに想定した意義特徴を□内に示す。3.2. 項以降で〔表2〕の裏づけと検証をすすめたい。なお、目的語の形式の違いが思考内容の違いと関連するという見方については李兴亚1987、大滝1987を参照されたい。

〔表2〕〔 〕内は統語的特徴 ☆は文法的意義特徴

		知 道	明 白	懂 得
判 断 者		意志行為(☆)	平相において もやもやしたもの ＝疑問を抱く。	純粹意志行為(☆) 影響を受けない。
判 断 思 考 方 法		深い理解や複雑な 思考を経ない 情報として取得し た状態になる。 ↓ 異相状態(☆)	事柄の全ての成行情況 について 正解を確信した状態に なる ↑ 〔糊塗〕に対立する状態 〔形容詞の明白〕	深く体得的に理解した 状態になる ↓ 異相状態(☆)
思 考 内 容 (目 的 語)	思 考 対 象	[名詞・句] 平相に存在した既 成の知識・一般的 事柄 ☆特指性	思 考 原 因 ↓ 生 産 物	[名詞・句] 平相に存在した既 成の追体験可能な 事柄 ☆特指性
			[名詞] 疑問を生じさせた 複雑な内容の原因 (平相) ☆特指性 [句・☆判断叙述] はっきり見出し た解答(異相)	

3.2. 「懂」と「懂得」

本稿では「懂」に替えて「懂得」の用法を調査した。「懂得」の方が使用できる文脈に巾があったこと、若いインフォーマントが「より使いやすい」語感を持っていたからである。まず用法上の主な違いを四点挙げる。

(1) 「没懂」は成立。「没懂得」は不成立。「※让他懂得懂得(彼にわからせなさい)」の統語特徴を加えて考慮し、純粹意志行為を文法的意義特徴として認める。なお、「懂没懂(わかりましたか?)」は教師が学生に問いかける等、上位者から下位者に対する表現という。

(2) 応答詞として「懂、懂」または「懂了」の形式をとるのに対し、「懂得」は単独使用できる。双方とも上位者から下位者への表現であるのは、他者から影響をうけない絶対的

意志を表すためと解釈できよう。なお、下位者からの応答(わかりました。)には、「知道了。」「明白了。」「好。」等が相当する。

(3) 「怎么懂?怎么懂得?」は不成立。「他不懂(得)!!」に該当する反問の意味になる。「怎么懂得的?(どうしてわかったのですか)」は、方法を尋ねる疑問文として成立。

(4) 「他〔 〕怎么用洗衣机。」の〔 〕内に「懂、懂得」が使えるかどうかについてインフォーマントの意見がわかれた。鹿氏は「知道」の“不規範的說法”として「懂得」を可とし、若いインフォーマントのうち1人が同一の内省報告をした。他の1人は「懂、懂得」をともに不可とし、もう1人はともに可とした。ただし、「刚五岁就〔 〕帮大人作事了。」については、1人が「懂」を不可とした以外「懂得」は全員可とした。

そこで(3)(4)の統語的特徴から、「懂得」には「懂」がもつ「当然知っているべきだと期待される枠、規範」という語義的特徴が欠け、かわりに「追体験可能」程度の意義特徴を有すると考えたい。

なお、「懂得」は南方で多用されるという報告もあった。

3.3. 想定した意義特徴〔表2〕の検証

まず〔表3〕に「知道、明白、懂得」の統語的特徴を整理する。

A①は、思考対象、思考原因がすべて平相の段階で特指性（讀井1986によれば、個別化を経ている）を文法的意義特徴としてもつものに対し、文脈の支えのない「誰」が泛指性を示すために不成立となる。ただし「知道」は「你知道他吗？（彼のこと知っていますか）」が成立するごとく、語義的意義特徴が単なる知識として人物を扱うことを許容できるので「报纸上介绍过谁，我就知道谁。（新聞で紹介のあった人物なら誰のことでも知っている）」のごとく、文脈前方指示に支えられた不定詞の用法に用いることができる。それに対し「明白」は語義的にも人物の存在を疑問を生じさせる原因と認められず（A④の事件やニュースのように単なる事柄の名称も同様）¹⁰⁾、「懂得」も語義的に、追体験する対象として人物やA④を認めることができない。

また、「誰」が連体修飾語内に用いられると説明要求の疑問詞的用法をとれることは、連体修飾という形式が動詞と虚目的語の泛指性に限定性を加える役割を担うことを示すといえよう。「你知道谁的情况？（誰の様子を知っているの？）」「你明白谁的意思？[△]（誰の気持がわかったの？）」「你懂得谁的话？[△]（誰の話に得心がいったの？）」等聞きとれなかった箇所聞き直しの場面等で用いられる。ただし、反問の表現に用いられやすいことに変わりはない。

A②が不成立でA③が成立するのは¹¹⁾、特指性を必要とする統語上の位置に泛指性かつ

〔表3〕 (○=成立, ×=不成立, / =入れ替成立)

		〔 〕 内に動詞を挿入	知道	明白	懂得
A (名詞・目的語)	①	你〔 〕谁？	×	×	×
	②	你〔 〕什么？	×	×	×
	③	你〔 〕什么！（反问）	○	○	○
	④	我〔 〕这件事／这个消息。	○	×	×
	⑤	我〔 〕你的话。	×	○	○
	⑥	我〔 〕他的意思／这个道理。	○	○	△／○
	⑦	他〔 〕礼貌。	×	×	○
B	①	我／你〔 〕是谁。／？	○	×	×
	②	我／你〔 〕于什么！（反问）	○	○	○
	③	我〔 〕要开会／哪天走。	○	×	×
C (句・目的語)	①	我〔 〕他来学校。	〔了。〕	×	×
	②	我〔 〕他的房子盖好。	〔了。〕	〔△了。〕	×
	③	我〔 〕他是中国人。	○	△	×
	④	我／你〔 〕什么叫集体制。／？	○	○	○
	⑤	我／你〔 〕他为什么不会来。／？	○	○	×

無限定の「什么」「誰」には人間という語義的意義特徴が含まれるが、「什么」は「什么人, 什么东西, 什么时候, 什么地方」という共起関係をつくれる点において無限定性が高いとみなせる)を置くことで「何一つ特定のものが無い」という反対方向の意味の強調が生じるためと考えられる。叙述の営みレベルで行なわれた強調の引きおこす伝達への連動関係(反問)については機を改めて述べる。

A⑤の「你的话」は内容が複雑なことが圧倒的に多く、思考を経なければ情報として処理できないため「知道」と共起できない。「明白」は話の中に理解できないことがあった場合の表現となり、「懂得」は体験的に理解しえた場合の表現である。「懂得」が「英文, 日文」等、国語能力について用いられるのも語義的に「体験一身につけた能力」という連動が働いたためと解釈できよう。A⑦の用法が成立するのも同様の原因と考えられる¹²⁾。

A⑥でも語義上の区別は当然存在している。次の例では「知道」と「明白, 懂得」との語義的意義特徴の区別が場面に反映する。

A⑥' 我不[]答案。

「知道」を入れると、解答が情報として入手できていないことを表わす。代表的場面としては、(1)問題は知っているが、答案は知らない。(2)「领导人」が自分を通さない答案のことなど知らないという。「明白, 懂得」では、眼前にできあがった答案が存在し、その内容が「わからない。」ことを表わし、用いられる場面を異にする。

B①は、「2.1.での考察に基づき「你知道他是谁吗?」の省略と考えられる。省略型の常として伝達レベルでの許容範囲と省略の型に注意を払わねばならない。まず、「你」を主題とした場合には、聞き手本人の事に関する叙述内容について、聞き手に述定をゆだねることになり疑問文が成立しやすいのに対し、「我, 他」を主題とした場合には聞き手にとって述定を下すための論理, 事実に関する情

報を整えておかなければ疑問を発することができない。「你知道」の場合は、叙述の営みの完了を示す「吗?」を省略できるのに対し、「他知道」では上昇文音調のみで疑問を表わせなくなるのはそのためと考えられる。次に、不定詞が統合型のどこに位置するかによっても省略の可能性が異なるようであり、インフォーマントの語感が個人的にもかなりゆれている。今後さらに検討したい。

B①' 你知道哪天走? [成立^{3/4}]

B①'' 你知道他哪天走? [成立^{3/4}]

B①''' 你知道怎么走? [成立^{1/4}]

B②の意味は「我说……」という「掲発(告発)」であり、(あなたは何をすべきか知っていますか?)という疑問文は「你知道应该干什么吗?」とするとのことである。

B③を含めC①②の動作やできごと(eventive)については原則として「知道」しか使えない。ただし特殊な文脈があればC②で「明白」を使える。つまり「でき事」を道理の一つにみなせる場合、「彼は家を建て終れば工場を開ける許可がおりるという前提のもとで確かに彼が家を建てたことはわかったが、やはり反対したい。」というような理屈の一部に組みこめる文脈を想定して、鹿氏は使えろとした。

また、「知道」のC①C②でみられる如く省略のない主述統合型によって表わされるでき事叙述を目的語とした場合、言い切るためには、(1)文末に語気助詞「了」「吗」等をつける。(2)目的語の中に時態に関する表現、「要, 了」等を入れる。のどちらかの条件を満たす必要がある。(2)の条件は、でき事の個別化(叙述時点との関連づけ, 事実の一回過程)を示す叙述の営みといえる。(1)の条件は、でき事を情報として扱う動詞表現に共通のものともみなせるようである¹³⁾。

C①' 你搞清楚几点出发了吗?

(何時出发かははっきりしましたか?)

C①'' 你听清楚他说的是什么事了吗?

(彼が何と言ったか聞こえましたか?)

C①' '你弄明白一共是多少钱了吗?

(全部でいくらかわかりますか?)

これらの用例は「吗?」を加えてもおお不定詞が説明要求の働きを失っていないもの(質問形式と質問の焦点がずれている)として鹿氏が考えてくれたものである。すべて質問形式が聞き手の回答能力を問う意味をもつため疑問を発する大前提(回答能力を信頼する)のもと、不定詞の方に質問の焦点が移行したと解釈できる。また、C①'の「几点」が未来でも過去でもかまわないこと、過去を明示するためには更に「的」を加え「~的了吗?」とすることからも、「了」が「搞清楚」と目的語全体にかかる語気詞であることがわかる。このことは、日本語が「~を知ります」よりも「~を知っています」を可とすることと考え合わせると興味深い。

C③④は目的語内が判断に関わる叙述であり、無条件の個別化(判断対象に対して一回判断を下す)が行なわれているため、「了」を加えずに言い切れると考えられる。

C③の「明白」は若いインフォーマントは不成立としたが、鹿氏は、「我早就知道了，你用不着说。」という発話場面を想定して、成立するとした。正解を確信しているという文脈の支えがある。C④の「明白」はインフォーマント全員が可としたが、鹿氏の内省では「特殊的，不是一般的原因」を見出した場合に用い、普通の原因ならば「了解，知道」を用いるとのことである。〔表3〕の分析を裏づける内省報告といえよう。なお、若いインフォーマント達は、判断叙述がより明確に叙述された「我明白他是不会在日本久住的。(私は彼が日本に長くいたはずがないとわかってい)」ならば成立するとする。これは明らかに疑問に対して見出した解答を表わしている。次の用例も目的語内の述語が形容詞で判断叙述であるため、目的語が「はっきり確信している解答」を表わしている。

C③' 她心地单纯，她懂得生活的快乐，她知道同情，她明白劳动有意义。

(彼女は心根が単純で、生活の楽しさを味わい同情というものを知り、労働が有意義なことを悟っている)

なお、「明白」は、野田1983においても形容詞としての用法が本義とされている如く、動詞として平相と異相間の変化が生じたことを表わす叙述を加えられた場合でも、形容詞のもつ対比性を裏づけとした意味を表わす。

補充例，他明白过一段时间，

→ 现在又糊塗了。

? → 现在又忘了。

(彼=病人は意識がしばらくははっきりしていたが、又朦朧としてしまった。)(?若いインフォーマントの一人は「忘了」も可としたが、鹿氏は不成立とした。)

3.4. 「知る，わかる」との比較対照

以上の意味分析で、必ずしも、「知道」=「知る」ではなく、必ずしも「明白，懂得」=「わかる」ではないことが判明した。そこで、「知る，わかる」の意義素について¹⁴⁾，〔表4〕に意義特徴を整理して記述し，そのうえで〔表3〕と比較対照を行ない，本稿の方法による意義素記述が二ヶ国語の比較対照に有効であることを示したい。

筆者は、日本語の「知る，わかる」の意義素を区別する最も重要な意義特徴(示差的意義特徴)は「平相で自分自身に対して疑問を発しているかないか」だと考える。疑問を発するためには予備知識が必要であり、解答を見出すためには思考力を必要とする。ただし、文法的意義特徴については本稿では考察をさし控える。

まず、「知道」が「知る」と対応しない文脈や場面を挙げてその原因を考えてみる。

①字書を引けば，わかります。(※知る)

查々字典就知道了。(明白了，懂得了)

「知道，明白，懂得」の間では、「知る，

〔表4〕 ①～⑧は用例比較の順序，☆は、文法的意義特徴，〔 〕内は統語的特徴

	知	る	わ	か	る
判断者	①平相では無知。他に情報提供源が存在する。		⑤平相では、ある事柄に対し自分自身に疑問を発する。		
判断思考方法	②与えられた情報・知識を現実や真理に合致するものとして受け入れる。☆叙実		⑥疑問を解明していた結果、解答（現実や真理に合致）を見出す。☆叙実		
思考内容（↑以外・思考対象）	〔名詞・句コト＋ヲ〕 ③与えられた情報・知識 〔質問形式（名詞・句）＋カ〕 ④与えられた情報・知識の情報価値のある箇所		〔名詞＋ガ〕 ⑦疑問を抱かせた事柄（⇒思考原因） 〔句コト＋ガ〕 ⑧見出した解答（⇒思考生産物） 〔質問形式（名詞・句）＋カ〕 ⑨抱いた疑問の情報価値のある箇所		

わかる」の間の示差的意義特徴が、弁別的意義特徴としての役割しか果たしていない。

②私は彼をよく知っています。

※我知道他→我跟他很熟。我了解他。

「知道」が単なる情報取得にとどまるのに対し、「知る」はより幅が広い。

③解放前，我知道他是死了，解放后，我才知道他没死¹⁵⁾。

※私は彼が死んだことを知ったが……

この用例はインフォーマント全員が不成立とし、「听说」ならば可とした。この作品中には同様の用法が散在するが、何故なのかわ解明できない。ただ日本語では叙実述語が「コト」という補文標式をとり、通常「ト」をとらない¹⁶⁾統語の特徴をもつゆえ、文法的特徴として「叙実」を想定しうるが、中国語では動詞が異相の状態を表わすことの方がより明

確に目的語の形式に影響を与えると考えられる。

次に、「明白、懂得」を含めて考察する。

④誰が先生を探しに行ったか知っています。

／⑨わかっています。

我知道谁找老师去了。

※明白※懂得※发现→查出

⑤小钱に替えて下さい。

わかりました。（※知りました）

请换零钱吧。（知道了。△明白了。

好的。 ※懂得了。

「わかる」には、「自分自身の能力を尋ねられ自問自答して引きうける」という肯定の回答を表わす派生義がある。⑤の否定形は「わかりません」ではなく「できません」となる。それに対し、「明白」の平相は「糊塗」という意識不明瞭を意味し、「わかる」ほど明確に対象を捉えていないので、例えば「両替の実態がわからなかった外国人」が用いる回答としてなら成立する。

⑥彼がどう思ったか、私は知りません。

我はわかりません。

他有什么感想，我不知道。

※不明白 ※不懂得

「明白」が見出した結論の中に含める不定詞は、理づめで考えねばならない「为什么」（原因，目的の空叙述―「～の原因，～の目的」が存在することだけを示す）「什么是～」（実態正体の空叙述）等の形式に限られるようである。鹿氏は「他说出来就知道，不需要理解的问题。」との語感に基づき、⑥を不成立とした。「懂得」は不明瞭な感想を追体験することはできないため不成立となる。日本語の「わかる」に相当する表現は「猜不到，不能估计到」とみなせる。

⑦こんなに雨が降ったら，

明日の遠足はどうなるかわかりません。

（明日の遠足はどうなるかは知りません。）

雨这么下的话，

不知道明天的郊游会怎么样。

※不明白, ※不懂得

→ 明天的郊游能不能按时举行,
不能预料。

外から与えられた情報ではなく考えだした判断の場合「知る」は用いられず、その点では「知道」も同じである。

⑧もう少し考えればわかります。

※知ります。知っています。

你再想一想就明白了。懂得了。

※知道了。

しかし⑦の句中表現の比較では、「不知道」が「話し手が情報を持っていないこと」を示す挿入語として巾広い用法を持つことがうかがわれる。それに対し「知る」は、思考内容に主題化 (topicalization) (特指性を加える文法的意義特徴有り) つまり「は」を加えたうえで、条件句を情報の中にとり入れた方が成立しやすい。

⑨このクラスの学生達は、英語進行態の用法 (をまだ (知らない) が (わからない)) と思います。

我认为这个班的学生们

还不知道英语进行态的用法。

※不明白 ※不懂得

→ 不会, 学不会。

「用法」は技術を表わす。中国語では技術の修得如何と、身についた能力如何とを区別する可能形がある如く¹⁰⁾、語義的意義特徴で双方を示差的意義特徴にとりあげる傾向があるようである。「懂得」は身についた能力を表わすゆえ、「用法」とは共起しにくい。

⑩田中は花子の性格をはんの表面しか

(知らない。
わからない。)

田中只知道花子性格的某一方面。

※明白 ※懂得

→ 了解, 理解

「了解・理解」は、ある思考対象を捉え調べたり考えの筋道を追ったりしてその実態を

把握する思考動詞」と考えられる。「わかる」の持つ「疑問を解明していく (過程)」という意義特徴は「明白, 懂得」には弁別的意義特徴としては含まれない。

4. おわりに

本稿は、従来、叙実述語グループ、世界創造語グループ等の名称で区別されてきた知覚・思考動詞の二分類を、意義素論の立場に対比研究するための第一稿である。今後さらに(1)動詞と目的語の共起制限を調査し、(2)叙述の営みに関する文法的意義特徴を考察し、(3)知覚・思考動詞の個々の意義素及び、動詞グループとしての特質がどの意義特徴 (語義、文法、文体) にどのように担われているかを明らかにしていきたい。

〈註〉

1) 服部1968, P 62「落とす」

2) 國廣1982, P 77助詞「ト」

3) 望月1969

4) 大滝1987

5) 大滝1979, 1980

6) 望月1971

7) 國廣1982, P 108 及び 1987 年度東京言語研究所における講義「同音異義語と多義の現象は本質的に連続しているものであり境界を定めようとするのがそもそも無理なことであると考えらるべきである。」「多義語とするか同音異義語とするかは辞書項目をたてる際にその目的によって変更しうる技術的な課題とみなせばよい。」

8) 例として「有人找你, 哎, 人哪儿去了? (君にお客さんだよ, あれっ, あの人どこに行っちゃったんだろう?)」が挙げられている。

9) 國廣1982, P. 68「意義素は生成文法で言っているのと同じ意味で深層に属しているものであり、表層との違いは品詞記述にも現われてくる。」とある。

- 10) 「这件事的真相」ならば可。「事柄の全ての成行情况について」を裏づける。
- 11) 疑問文にするには「你知道什么了吗?」「你还知道什么?」等、陳述に関する形式を加える必要がある。
- 12) 「懂」の方が簡単な言い方で好まれる。
- 13) 「能、想」など、判断叙述を動詞の前に加えない表現を扱う。
- 14) 森田1977. 柴田等1979. 参照
- 15) 大石1980. 所収。老舍「全家福」より。
- 16) 井上1976, ただし
 「どうして〜トわかる (知っている)
 の・ノ (です) (か)」
 如く、陳述レベルで叙実が表わされた場合には、「ト」もとれると考えられる。
- 17) 「会」と「能」の区別をさす。

文献目録

- 服部四郎1968『英語基礎語彙の研究』三省堂
- 國廣哲弥1982『意味論の方法』大修館書店
- 望月八十吉1969「中国語のはめこみ構造」
 『人文研究』vol. 20—10
 ——1971「中国語の疑問詞」
 『人文研究』vol. 23—3
- 橋本万太郎1981「不定指示と疑問」『現代博
 言学』大修館書店
- 大西智之1987「現代中国語の疑問詞の諸相」
 『日本語と中国語の対照研究』12号
- 大石 1980「現代漢語における疑問文について」『人文論叢』No. 8.
- 王还1985「“把”字句中“把”的宾语」
 『中国語文』第1期

- 李兴亚1987「“怀疑”的意义和宾语的类型」
 『中国語文』第2期
- 井上和子1976「名詞句の構造」『変形文法と
 日本語・上』大修館書店
- 森田良行1977『基礎日本語Ⅰ』角川小辞典7
- 柴田武・國廣哲弥等1979『ことばの意味2』
 平凡社選書66
- 呂叔相主編1979『现代汉语八百词』商务印书
 馆
- 『汉语常用动词搭配词典』1984. 外语教学与
 研究出版社
- 『动词用法词典』1984. 上海辞书出版社
- 『常用词用法例释』1982. 中国人民大學出版
 社
- 『近义词辨析』1983. 北京语言学院
- 興水優編 『中国語常用語句例解』東京外
 国語大学語学教育研究協議会
- 大滝幸子1987「中国語知覚・思考動詞の意味
 記述—觉得, 看, 以为, 认为, 想」
 『中国語学 234 号』
 ——1979「中国語語氣詞の意味記述 (その
 1)」『中国語学 226 号』
 ——1980「中国語語氣詞の意味記述 (その
 2)」『中国語学 227 号』
- 『中国語学 234 号』所載前稿の訂正
- P54 「不放心孫子」→「不放心孩子」
- P58 A表(3)想・△→× (名詞目的語, 〜し
 たい○)
 C表(1)②③→当然要, 好象
 筆者の校正ミスをおわびいたします。